

各種委員会報告

I. 学術集会

1. 学術委員会

委員長 石 原 聡一郎

1. 定期学術集会について

- 1) 定期学術集会のプログラムは、会頭がプログラム委員会を設置した上で検討を行い、さらに本委員会でも継続的に扱うテーマや分野毎のバランスなどを考慮した上で、第126回の特別企画や上級演題のテーマの最終確認を行った。
- 2) プログラムの検討にあたっては、サブスペシャルティ学会とのテーマの重複を避けるため、第122回以降、サブスペシャルティ学会からテーマに関する要望やプログラム委員の推薦を事前に募集し、参考の上、検討を行っている。第126回でも同様に、サブスペシャルティ学会からプログラム委員の推薦を募り、検討を行った。
- 3) 学術集会の今後のあり方として、英語化の他、演題の採用率や会場の聴講者数の増加などにおいても検討している。

2. 合同プログラム委員会について

過去6回に亘る本会と外科系サブスペシャルティ学会の理事長による協議の結果、「プログラムの内容の重複を避けるなどのために、各学会が恒常的に協議する枠組みを設置すること」が合意され、その枠組みとして「合同プログラム委員会」が設置されることになった。

令和7（2025年）1月に第1回となる合同プログラム委員会が開催され、2026-2027年の各学術集会のプログラムを確認したところ、多数の学会でプログラムはまだ出来上がっていないことを確認した。

そこで、本会（第126回）のプログラムは既にほぼ完成している状況にあるため、第126回のプログラムを共有し重複することのないよう各学会へ呼びかけた。

また、「Web配信システムの構築や運営についての知見を持つ非営利の団体にサポートを仰ぐこと」も目的の一つとしており、その非営利の団体に該当する「九州大学病院国際医療部アジア遠隔医療開発センター（TEMDEC）」にもアドバイザーボードとして参加いただいた。各学会で協力が必要となる際には適宜 TEMDEC へ相談いただくことで周知した。

3. Future Surgeons Club について

医学生、及び初期研修医の「外科専攻」へのリクルートを目的とした「Future Surgeons Club（以下 FSC）」を本委員会内に設置した。

3年後を見越して具体的な企画を立案・実施する予定であり、本年度から実施すべく内容を検討中であるが、本企画の一環として第125回定期学術集会では「医学生への旅費と宿泊費の支弁」を先行して行い、今回の定期学術集会開催を迎えている。全国に医学部を置く82大学に対して各3名を選考いただき、会場への交通費、滞在中の宿泊を支弁する企画であり、79大学が本企画へ参加している。

また、旅費支弁以外にもリクルートに繋がる企画を検討中であり、本年度から運用できるよう引き続き検討を進めていく。

4. オンライン抄録について

第 115 回定期学術集会より本会雑誌としての「抄録集」が廃止になり、現状では回ごとにオンライン抄録をホームページで公開している。本会のホームページに過去の抄録を一度に検索できるようオンライン抄録専用のページを作成中である。

5. 各種賞の推薦について

平成 24 年度から文化財団や科学財団などから各種賞の候補推薦が依頼された場合には、本委員会にて募集し、選定を行っている。